

# 政務活動費（市民連合）出張報告書

令和 5年 12 月 7 日

|  |                        |
|--|------------------------|
| 氏名<br>濱岡 歳生                              | 用務<br>第85回全国都市問題会議     |
| 期間<br>令和 5年 10月 12日から<br>令和 5年 10月 13日まで | 出張先<br>八戸市公会堂・公会堂文化ホール |

## 調査事項・意見

基調講演 東京藝術大学長 アーティスト 日比野 克彦 氏

アートの役割って何だろう？

アーティストとしての自身の活動を通じたアートによる社会課題へのアプローチを提示するとともに、アートと社会との接続に向け同大学が進めているプロジェクトなどを紹介し、参加者らのアートへの認識を新たにした。

さらにアートによる社会的課題の解決を目指す「東京芸術大学としての取り組みとして、「福祉×芸術」をテーマに多様な人々の共生を目指す人材育成プログラムや、人とのつながりにより健康を促す「文化的処方」の実装を目指して2023年から開始された多くの企業や自治体に参加する「アートコミュニケーション共創拠点プロジェクト」にフリアの紹介があり、併せて文化的処方についてイギリスの先進事例などが取り上げられた。

開会式

開会式の冒頭では、主催者を代表して全国市長会会長の立谷秀清・相馬市長による開会あいさつがあり、続いて熊谷雄一・八戸市長による開催市長あいさつがあった。また、宮下宗一郎・青森県知事からビデオメッセージによる祝辞をいただいた。

基調講演

東京藝術大学長、アーティストの日比野克彦氏より「アートの役割って何だろうか?」というテーマで基調講演が行われた。アーティストとしての自身の活動を通じたアートによる社会課題へのアプローチを提示するとともに、アートと社会との接続に向け同大学が進めているプロジェクトなどを紹介し、参加者らのアートへの認識を新たにした。

冒頭では2021年に開館した八戸市美術館に言及し、美術館が有する「ジャイアントルー

ム」という特徴的な空間は、ICOM(国際博物館会議)により2022年に更新された「博物館(美術館も含む)」の定義に基づき、地域の中で「コミュニティと交流の拠点となっていくものである」と解説した。

続いて、日比野氏がこれまで継続的に取り組んできたアートによるコミュニティづくりの活動として、出身地である岐阜県岐阜市における「こよみのよぶね」をはじめ、茨城県水戸市で開催している「HIBINO CUP」、水戸芸術館や金沢

21世紀美術館での「明後日朝顔プロジェクト」、瀬戸内国際芸術祭での取り組みや、館長を務める熊本市現代美術館でのアート活動などが紹介された。市民らと一緒に「何かをつくること」などを通じたコミュニティの形成や、人間が物語を紡ぐ発想力を引き出す力など、社会的課題の解決に向けたアートの役割が示された。

さらに、アートによる社会的課題の解決を目指す東京藝術大学としての取り組みとして、「福祉×芸術」をテーマに多様な人々の共生を目指

す人材育成プログラム「Diversity on the Arts Project」(通称DOOR)や、人とのつながりにより健康を促す「文化的処方」の実装を目指して2023年から開始され多くの企業や自治体が参加する「アートコミュニケーション共創拠点プロジェクト」についての紹介があり、併せて文化的処方についてイギリスの先進事例などが取り上げられた。

最後に、「アートは生きる力」というメッセージとともに、基調講演を締めくくった。

主報告

熊谷雄一・八戸市長により「八戸市の文化・スポーツによるまちづくり」のテーマに関する主報告が行われた。文化・スポーツに関する公施設整備を中心とした取り組みの意義と課題を報告した上で、それらの拠点を通じた地域のネットワークやコミュニティの形成への展望を示した。

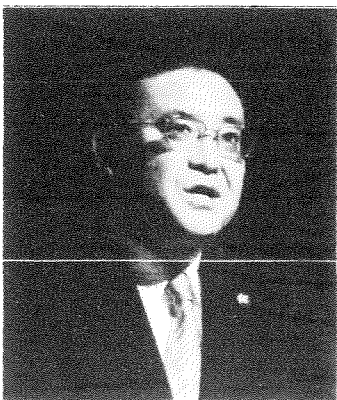
八戸市が展開してきた文化によるまちづくり

基調講演

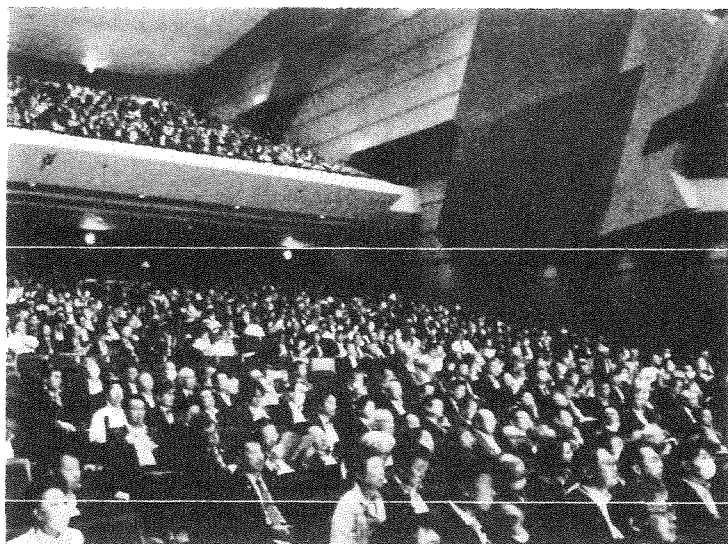


日比野・東京藝術大学長、アーティスト

主報告



熊谷・八戸市長



として、2011年に整備された「八戸ポーターミュージアムはっち」や、そのプレ事業として2008年にスタートしたアートプロジェクト「酔っ払いに愛を 横丁オンリーユーシアター」をはじめ、2016年に開設した「八戸ブックセンター」や、2018年に開設した「八戸まちなか広場マチニワ」、2021年開設の「八戸市美術館」など、空洞化した中心市街地の都市機能再編と連動した文化施設整備や文化活動の取り組みを中心に説明した。

スポーツによるまちづくりでは、まず「氷都・八戸」の市民の文化として根付いているスケート競技の支援として、2019年に整備された

「長根屋内スケート場（YSアリーナ八戸）」や2020年に整備され市民連携で運営する「FLAT HAKUSHIHOE」などの施設整備、競技人口の裾野を広げる「氷都八戸パワーアッププロジェクト」が紹介され、次いで、八戸市に拠点を置く四つのプロスポーツチーム（サッカーの「ヴァンラーレ八戸FC」、アジアリーグアイスホッケーの「東北フリーブレイズ」、バスケットボールの「青森ワッツ」と「八戸ダイム」と、それらを地域のスポーツの資源として活用し、市民による多様な関わりの場を提供する取り組みについての紹介があった。

市長は文化とスポーツが「生きる喜びに直接訴えかける」ような本質的な価値を有するとして、特に社会的価値について、人口減少下の地域社会における市民らのネットワーキングとコミュニティづくりの観点からの効果に言及し、それらの拠点となる公共施設などパブリックな空間の重要性を説いた。

### 一般報告

1日目の10月12日の午後には、3題の一般報告が行われた。

1 題目は、文化事業ディレクター、演出家の吉川由美氏より「まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から育まれる」と題した報告が行われた。これまでのアートプロジェクトでの経験を通じて、今の社会に求められている、これまでと異なる視点からの文化政策として、幅広い分野のプラットフォームに文化を位置付け地

域社会を醸成していく、地域に根差した在り方を示した。

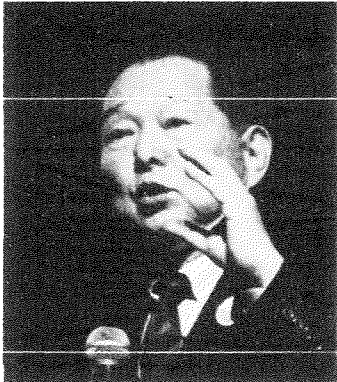
吉川氏が約10年間にわたり担当してきた「八戸ポータルミュージアムはっち」のアートプロジェクトでは、市民と共に「地域の資源を大事に思いながら新しい魅力を創り出す」ことをテーマとして掲げ、三つの柱（①八戸の中心街をみんなの関心空間にする、②八戸の地域資源を再発見して再価値化する、③フラットな交流と対話の場を創出）を提示し、各プロジェクトについて紹介した。まちの人々の情報を吹き出しにする「八戸のうわさ」、開館記念の写真展「八戸レビュウ」、八つの横町を舞台にした「酔っ払いに愛を 横丁オンリーユーシアター」、古武芸の騎馬打毬と中学校ロボコンを組み合わせた「はっち流騎馬打毬」、漁食文化をテーマにした「魚ラボ」、デコトラを衣装として作るワークショップなどの取り組みを通じて、市民らの普段の役割や立場の壁が取り払われ、対等に語り合い異なる価値観を認め合う場や、主役としてまちを動かす市民のマインドが醸成されていく様子を、現場の視点から報告した。

今求められている文化政策として、八戸三社大祭を題材にした「DASHIN」プロジェクトを例に挙げ、山車小屋での山車づくりの場がそこに関わる人々をコミュニティの一員として孤独から解放し、地域をつくる人を育てている様子を示し、「地域社会の分母」として日々の暮らしの中で文化を支えている市民の無償の奉仕に対する支援の必要性を指摘した。さらに、吉川氏が

一般報告



吉川・文化事業ディレクター、演出家



花岡・東御市長



鈴木・株式会社鹿島アントラーズFC  
取締役副社長

アートプロジェクトを通して携わった東日本大震災の被災地である宮城県南三陸町の戸倉地区において、震災後に漁師らが全員一斉に漁業権を放棄し、カキの養殖の利益を再分配する取り組みで国際認証を取得した復興について、「人は一人では生きられない」という地域に根差した「講」の文化が背景にあるとし、地域の方を育む場としてのアートプロジェクトの可能性を語った。

結びに、吉川氏は文化政策を料理の「出汁」のようなものと例え、地域社会の分母としての文化を支える、地域に根差した文化政策を考えていきたいと述べた。

2 題目は、花岡利夫・東御市長により「標高差1500mの地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出」と題して、東御市の地理的環境を地域資源として捉え、標高差を活用したトップアスリートの高地トレーニング施設の整備の経緯や、市民や一般の人々への波及効果についての報告があった。

東御市の平地が少なく標高差のある地形はこ

れまで土地利用としては欠点という認識が持たれていたが、その特徴を個性として捉え、地域資源として生かすための取り組みとして、主に農地をワイン用のブドウ畑に転用したワイナリーと、トップアスリートのための高地トレーニングの施設が整備されてきたと説明した。

高地トレーニング施設として東御市に整備された「GMOアスリートパーク湯の丸」について詳しく紹介があり、2021年夏の東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、長野オリンピックのレガシーである北陸新幹線や上信越自動車道による東京からのアクセスの良さを活用し、新たなレガシーとしてトップアスリートたちのトレーニング施設をつくることを目指して、さまざまな困難な状況の中で財源の確保や水泳競技の公認規格を実現するために打ち出されていた施策について報告した。

トップアスリートを受け入れるために必要な条件として、市長は、①練習施設、②休養・宿泊場所、③アスリートを支える食事、④プライ

バシーとセキュリティ、⑤医学的サポート、の五つのポイントを提示し、それらの高い水準を満たすためにスポンサーなどの協力を得ながら湯の丸にて実施した施設整備の取り組みについて紹介した。

最後に、高地トレーニング施設の波及効果として、高齢者の健康増進やトリアスロン競技者の利用、山に登って標高差を克服するイベントの開催など、市民や一般の人々への広がりを見せたことを示し、標高差を生かして盛りになりつつあるワイナリーとスポーツツーリズムを地域に還元し、市内外の人々にとって訪れる価値がある地域として発展させていくという今後の展望を述べた。

3 題目は、株式会社鹿島アントラーズFC取締役副社長の鈴木秀樹氏より、「まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用」と題した報告が行われた。全国で100を超えるプロスポーツクラブと自治体との関係が問われる中で、Jリーグが開幕してからの30年間にわたり、

鹿島アントラーズが構築してきた地域との関わりを経験を通じて、地域の資源としてのプロスポーツの活用の可能性を示した。

まず鹿島アントラーズの本拠地であり鹿島臨海工業地帯を有する設立当初の5町村におけるサッカーチームとスタジアムの設立から、ホームタウン5市（鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、銚田市）とフレンドリータウンにおける公的連携、2011年の東日本大震災を経て地域との関係において新しい方向性へ舵を切った経緯などについて説明があった。

スポーツクラブが地域にもたらす関係性の実践例として、アントラーズのプロスポーツ専門のドクターが一般市民も診療する体制を整えたり、フィットネス事業や介護予防医療といった地域医療への貢献、プログラミング教育や食育の取り組み、学校での講演やスタジアムでの遠足の受け入れなど、教育や人材育成への貢献などが紹介された。さらに、プロスポーツが有する重要な資産として試合時の観戦客などの「データ」を挙げ、自治体の施策への活用を促した。

2006年より指定管理者制度を用いて運営するスタジアムでは、ビジネスの制約を受けず自由度を高めるために指定管理料をゼロにすることを一昨年から実験的に取り組んでおり、「スマートスタジアム構想」と題したチケットの電子化などのデジタル化の試みや、芝生を保護して休ませるよりも使って稼ぐという考え方、地域のまちづくりの課題解決に寄与する新スタジアム構想など、スタジアムを活用したビジネス

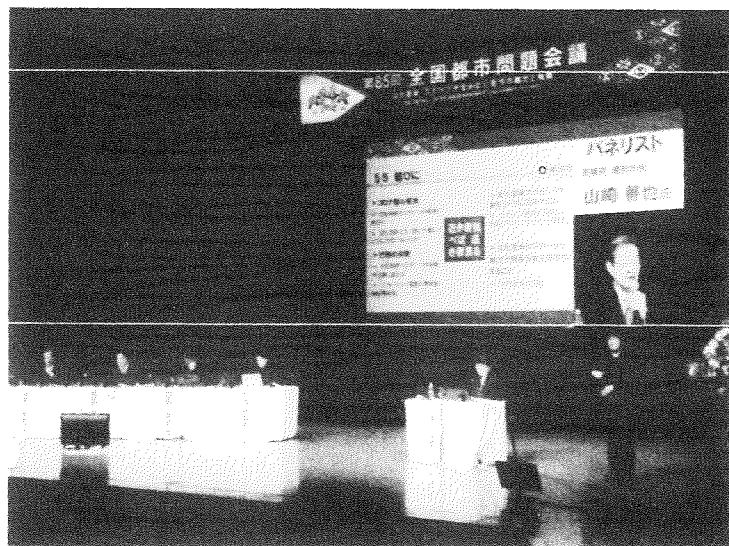
の実践を報告した。

最後に、鹿島アントラーズのアセットを用いてこれまでと異なる視点からの地域との関係を探るため、2021年に新たに立ち上げたまちづくり会社（株式会社KX）の紹介があり、コミュニティを生み出すための「人づくり」を応援していく方針を示すとともに、教育、育成、医療などの観点からプロスポーツの資源を理解して地域で活用していくことを提言した。

#### パネルディスカッション

2日目の10月13日の午前はパネルディスカッションが開催され、小林真理・東京大学大学院人文社会系研究科教授をコーディネーターとして迎え、今川和佳子・合同会社majima代表取締役、松橋崇史・拓殖大学商学部教授、頼重秀一・沼津市長、山崎善也・綾部市長らがパネリストとして登壇した。

まず冒頭で、小林氏は「人間がいるところには必ず文化がある」と述べ、地域の持続にとつて「文化」が大切で、人々の生まれながらの権利である一方で、単目的な文化行政の施策の在り方に疑問を呈し、「文化」の領域を地域のコアとしてまちづくり全体に開いていき、各分野が連携して文化で横串を刺すという、これからの地域の文化振興の方策を示した。さらに初日の議論の振り返りとして、アート・文化それ自体の役割と可能性、地域資源の見直しとスポーツ振興、人を育てる（行政・住民・事業者など）、まちづくりを協働できる人や企業との成長、など



の論点を挙げた。

今川氏は「八戸の独自性が生み出してきたもの」というテーマで、「はっち」のコーディネーターとして取り組んだプロジェクトや現在取り組む事業について報告した。「はっち」では、オープン前の3年間で約30のプロジェクトを実施するなど、事前の段階からの市民との協働や相互理解の重要性を説いた。

アートプロジェクトを通じて、市民が参加することで思いもよらないものが出来上がっていく面白さや、郷土芸能を習いに来たアーティストや漁師さんとの交流など、八戸にこぼれ落ちている小さいものや人を探し出し、感動を周りに

パネルディスカッション

コーディネーター



小林・東京大学大学院人文社会系研究科教授

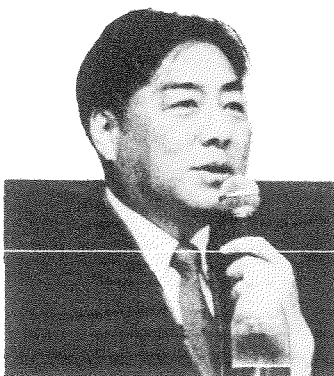
パネリスト



今川・合同会社imajimu代表取締役



松橋・拓殖大学商学部教授



頼堂・沼津市長



山崎・綾部市長

に伝えるという取り組みの姿勢を示し、「酔っ払いに愛を 横丁オンリーユーシター」ではまちの人の寛容性や相互理解の高まり、「三陸国際芸術祭」では民俗芸能で若手の芸能者に着目することでこれからのアクションや交流が生まれている様子、「八仙」の酒蔵を活用して音楽やアートの入り口をすることで人材育成や人のつながりに貢献した事例などを紹介した。

松橋氏は、「地域活性化におけるスポーツの役割とその変化」というテーマで、地域活性化とトップスポーツクラブ、地域活性化とスポーツ

政策、地域活性化で重視される考え方とスポーツの役割の変化、の観点から報告を行い、文化政策の中におけるスポーツの役割を提示した。

トップスポーツクラブと自治体との関係として、Jリーグがスタジアムやアリーナを有している地域の自治体から支援を得る必然性があったことから、地域密着という戦略的な理念を打ち出したことがスポーツと地域の距離を一気に縮める契機となったと説明し、クラブ・自治体の双方からスポーツクラブを用いた地域課題の解決に取り組まれつつある現状認識を述べた。

スポーツ政策については、国体の種目振興をはじめ、全国大会や世界大会などの開催がトリガーとなって各地のスポーツ振興が促されることを示した。

さらに、多様性の観点から、スポーツの道具やルールを変えろといった共生社会を実現するための解決策をスポーツが提供しつつある状況を示すとともに、スポーツ選手の懸命さを弱さや脆さも含めて情報として発信し、時代に伴って訴求されるスポーツの価値や地域活性化の文脈における役割を考えていくことの重要性を伝





えた。

頼重氏は、「スポーツとアニメを活用したにぎわいの創出」というテーマで、沼津市のスポーツ振興や、アニメの舞台としての取り組みについて紹介した。

2023年に整備された「香陵アリーナ」をはじめ、フェンシングの交流拠点施設「BASE」や、民間のBMXやMTBの練習場の「DKFERIDE MTR PARK」といった公設や民営のスポーツ施設の整備について紹介があり、続いて「フェンシングのまち沼津」としての取り組みや、「アスルクラロ沼津」をはじめとする沼津市を拠点とするプロスポーツチームとの連携事業、自然環境を生かしたサイクリングの環境整備などについての報告があった。

さらに、「ラブライブ！サンシャイン！！」2期の舞台となったことを契機に始めた、市内各地の聖地巡礼、民間事業者や商店街との協働、行政としての民間の活動のサポートや情報の発信、観光PRへの起用などの取り組みを紹介した。これらのスポーツやアニメの取り組みを継続し、市外の人々に興味を持ってもらうことで生じる交流人口や関係人口の増加につながるなどの効果を示唆した。

山崎氏は、「文化芸術・スポーツで紡ぐまち・綾部」というテーマで、「合唱のまち」の取り組みを中心に綾部市における文化やスポーツの推進について紹介した。

綾部市ではふるさと教育の一環として、市歌、踊り、太鼓を市民全体で普及啓発に努めている一方、高齢化で文化に関わる人の裾野が狭まっていることを踏まえ、育成型と鑑賞型を組み合わせ合わせた文化事業に取り組んでいるとの報告があった。さらに、スポーツではサイクリングやカヌー、登山レース、トレイルランなどの大会を開催してきており、地域住民による地域の地産地消の食べ物の提供なども地域振興へ貢献できることだと指摘した。

最後に、文化やスポーツはそれらを望む人が関わりやすい環境整備が行政に求められるとし、まちづくりへの方策として、Uターンなどの動機の一つとしてのふるさと教育や、移住・定住施策では、住んでいる市民の生活を楽しく元気にしていくことが大事で、それを見て遠くの人が訪れたいくなるようなまちづくりを目指したいと述べ、報告を終えた。

以上の各パネリストからの報告を踏まえて、デイスカッションでは、事前のコミュニケーションの時間を取って理解者を増やす重要性や、経済的価値や社会的価値だけではなく本質的価値を問う必要性などが示された。

#### 閉会式

閉会式では、次期開催都市の清元秀泰・姫路

#### 兵庫県 清



市長のあいさつ、(公財)日本都市センター理事の奥山恵美子氏より閉会あいさつが行われ、2日間の学びの場は、盛会のうちに幕を閉じた。

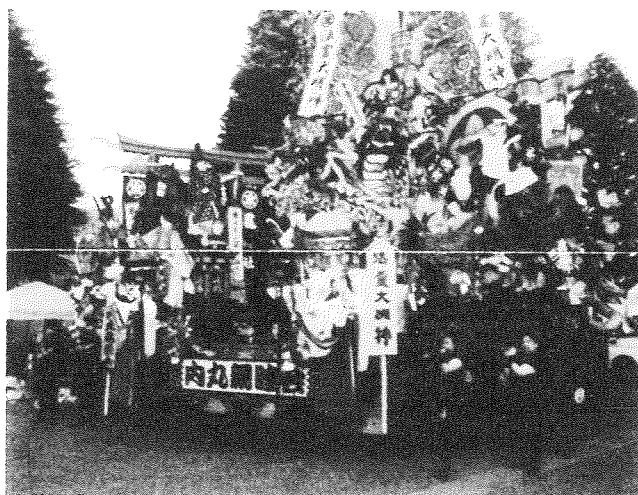
#### 行政視察

午後には希望者による行政視察が実施され、参加者らは、

文化・八戸市中心市街地の文化芸術拠点「八戸ブックセンター」や「はっち」などを巡る  
スポーツ・市内の「長根屋内スケート場」やア  
イスアリーナ「PLANT HACHINOHE」を巡る



陸奥国八戸総鎮守の法蓋山籠(ほうりょうさんおがみ)神社に伝わる山伏系統の法蓋神楽の披露。八戸三社大祭では迫力の一斉歯打ちを見せる



ユネスコ無形文化遺産「山・鈴・屋台行事」に登録されている八戸三社大祭の山車が展示された

歴史・文化財などを展示する「是川縄文館」の見学や、「えんぶり」鑑賞で歴史に触れる  
 自然・名勝「種差海岸」やウミネコの繁殖地「蕪島」などの豊かな自然や景勝地を巡る  
 港・船上から港町八戸の漁港・自然・工業などが織りなす港湾風景を望む  
 つなぐ・「多賀多目的運動場」や、救命救急医療を有する「八戸市立市民病院」を巡る  
 の六つのテーマに分かれて視察を行い、この度の会議で議論された八戸市の文化芸術・スポーツをじかに体験した。

今回の会議の議論を通じて、文化政策や文化振興・スポーツ振興を考えていく上で、まず「文化」という言葉の射程を、われわれの身近な生活のもの・ことから問い直す必要性を、それぞれの登壇者の共通のメッセージとして受け取った。吉川氏や今川氏らが携わった「はっち」のブレ事業のように、事前段階からの地域との

閉会式



協会あいさつを行う奥山・理事

関係構築や相互理解を通じて、市民の生活と有機的かつ連続的につながり、地域の空間やコミュニティを形成しながら、それらを通じた「文化」の新しい在り方を模索していく文化事業やスポーツ事業が今後求められていくことが示されたように思う。この度の議論を踏まえた政策の展開を通じ、各地の固有の「文化」とそれに結び付く市民らの生活が、持続し、芽吹き、発展していくことを切に願う。



次期開催市のあいさつを行う高元・姫路市長



# 1. 会議日程

## 第1日 10月12日 (木)

|       |  |
|-------|--|
| 9:30  | <p>開会式</p> <p>開会挨拶 全国市長会会長 福島県相馬市長 立谷 秀清<br/>         開催市市長挨拶 青森県八戸市長 熊谷 雄一<br/>         来賓祝辞 青森県知事 宮下 宗一郎</p> |
| 9:50  | <p>基調講演</p> <p>アートの役割って何だろう？<br/>         東京藝術大学長、アーティスト 日比野 克彦</p>  |
| 11:00 | <p>主報告</p> <p>八戸市の文化・スポーツによるまちづくり<br/>         青森県八戸市長 熊谷 雄一</p>   |
| 12:00 | <p>昼食</p>  |
| 13:10 | <p>一般報告</p> <p>まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から育まれる<br/>         文化事業ディレクター、演出家 吉川 由美</p>                                |
| 14:10 | <p>休憩</p>  |
| 14:30 | <p>一般報告</p> <p>標高差1,500mの地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出<br/>         長野県東御市長 花岡 利夫</p>                                   |
| 15:30 | <p>一般報告</p> <p>まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用<br/>         株式会社鹿島アントラーズFC取締役副社長 鈴木 秀樹</p>                             |
| 16:30 | <p>終了</p>  |

## 第2日 10月13日 (金)

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 9:30                      | <p>パネルディスカッション</p> <p>【テーマ】</p> <p style="text-align: center;">文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展</p> <p>【コーディネーター】</p> <p style="text-align: center;">東京大学大学院人文社会系研究科教授      小 林 真 理</p> <p>【パネリスト】</p> <p style="text-align: center;">             合同会社 imajimu 代表取締役      今 川 和佳子<br/>             拓殖大学商学部教授                  松 橋 崇 史<br/>             静岡県沼津市長                        頼 重 秀 一<br/>             京都府綾部市長                        山 崎 善 也         </p> |
| 11:50                     | <p>閉会式</p> <p>次期開催市市長挨拶      兵庫県姫路市長 清 元 秀 泰</p> <p>閉会挨拶                      公益財団法人日本都市センター理事<br/>   奥 山 恵美子</p>   |
| <p>行政視察【事前申込者のみ (有料)】</p> |   |
| <p>参加 → (E)</p>           | <p>行政視察</p> <p>A: HACHINOHE CULTURE 文化<br/>「市民の創造、想像、感性を育む文化芸術拠点」視察コース</p> <p>B: HACHINOHE SPORTS スポーツ<br/>「市民がスポーツを楽しみたいとなるまちの実現と氷都八戸の振興」視察コース</p> <p>C: HACHINOHE HISTORY 歴史<br/>「世界遺産と日本100名城の古の記憶に想いを馳せ、今に伝える歴史文化拠点」視察コース</p> <p>D: HACHINOHE NATURE 自然<br/>「人と自然が共生する三陸復興国立公園の北の玄関口」視察コース</p> <p>(E) HACHINOHE PORT 港<br/>「海から拓け、海とともに生きる街を海から騎む」視察コース</p> <p>F: HACHINOHE CONNECT つなぐ<br/>「命をつなぎ、市民の安全安心な暮らしを守る」視察コース</p>                           |

## 2. 講師紹介

### 基調講演



ひびの けん  
日比野 克彦

東京藝術大学長、アーティスト

1958年岐阜市生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。1982年第3回日本グラフィック展大賞、1983年第30回ADC賞最高賞、1986年シトニー・ビエンナーレ、1995年ヴェネチア・ビエンナーレ出品。1999年毎日デザイン賞グランプリ、2015年文化庁芸術選奨芸術振興部門文部科学大臣賞受賞。2007年より東京藝術大学教授。2022年4月より東京藝術大学長に就任。他の主な要職として、岐阜県美術館長、熊本市現代美術館長、日本サッカー協会社会貢献委員長を務める。

### 主報告



くまかい ゆういち  
熊谷 雄一

青森県八戸市長

1962年青森県八戸市生まれ。1985年日本大学法学部卒業。2001年八戸市議会議員に当選(1期)。2003年青森県議会議員に当選(5期)。2011年東日本大震災対策特別委員会委員長。2015年議会運営委員会委員長。2017年には青森県議会議長に就任。2021年に八戸市長に就任し、現在1期目。市民との対話を重視し、市政に対する理解と共感を得ながら、「災害や危機に強い安全安心で暮らしやすいまちの実現」や「子どもファースト事業の推進」、「スポーツ・文化、観光による魅力と活力あるまちづくりの実現」など、市民とともに新しい八戸の創造を目指し市政に取り組んでいる。

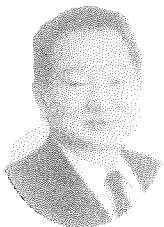
### 一般報告



よしかわ ゆみ  
吉川 由美

文化事業ディレクター、演出家

仙台市生まれ・在住。宮城教育大学卒業。文化芸術を核に、コミュニティ、地域資源、観光、教育、医療、福祉などをつなぎながら、地域に活力と新たな価値を創り出す活動を進めている。青森県八戸市の八戸ポータルミュージアム はっちで10年間アートプロジェクトをディレクション。八戸市美術館のオープニング展「ギフト、ギフト」のディレクターを務めた。東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町で、多様なアートプロジェクトを展開してきた。「南三陸311メモリアル」のラーニングプログラム制作と展示ディレクションを担当。



はながた りつお  
花岡 利夫

長野県東御市長

1951年生まれ。山口県宇部市出身。信州大学農学部を中退し、妻の実家の家業を継ぐ。「御菓子屋花岡」の三代目として、地元特産品の「くるみ」をつかった和洋菓子を次々と開発。県内に7店舗を構える人気店へと成長させる。同時に、参議院議員秘書や観光協会、商工会での活動を通じ、「まちづくり」の魅力に引き込まれる。平成20年4月、第2代東御市長に就任。地形(標高差)を活かした取り組みで、地方創生を着実に推進する。現在4期目。全国市長会北信越支部長、北信越市長会会長、長野県市長会会長を務める。



きむら しげのぶ  
鈴木 秀樹

株式会社麗高アントラース FC 取締役副社長

1960年12月21日生まれ。青森県八戸市出身。陸上自衛隊少年工科学校を経て、富士学校戦車教導団へ。同団で教育支援に携わっていた1980年、サッカー日本代表選抜候補に選出。1981年、住友金属工業株式会社(現:日本製鉄株式会社)に入社し、当時日本サッカーリーグ(JSL)2部の同社蹴球団に選手として加入する。引退後は競技運営に携わるようになり、日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)への初年度加盟が決まると、麗高アントラースと名称を変更したクラブにおいてスポンサーシップやチケットングを取り扱うフットボール事業業務に従事する。事業部内の主要ポスト歴任後、2010年同クラブ取締役就任、2022年から取締役副社長。また、2013年からJリーグ・マーケティング委員、2017年から2020年までJリーグ・マーケティング委員長を務めた。2014年から筑波大学客員教授、2015年からは茨城県サッカー協会副会長を務める。

・KASHIMA ANTLERS

## パネルディスカッション

### コーディネーター



こはやし まり  
小林 真理

東京大学大学院人文社会系研究科教授

東京都武蔵野市在住。早稲田大学大学院政治学研究所博士課程単位取得退学、博士(人間科学)。2004年から現職。国および地方自治体の文化政策および文化行政の研究を行っている。地方自治体の長期計画策定委員会、文化審議会、文化施設建設構想関係の委員会等の委員を務める。編著書等に『文化政策の現況シリーズ(全3巻)』(東京大学出版会、2018)、『法から学ぶ文化政策』(有斐閣、2021)、『自治体文化行政レッスン55』(美学出版、2022)等。

### パネリスト

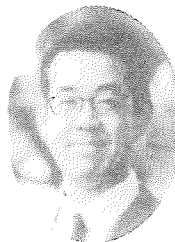


いまがわ かほこ  
今川 和佳子

合同会社 imajimu 代表取締役

八戸市出身。2008年から6年間、八戸ポータルミュージアムはっち初代コーディネーターとして、文化芸術事業を担当。2014年、合同会社 imajimu 設立。アートイベントの企画運営、商品企画開発のほか、最近は「屋のみ部」という人が集う場を作り自ら料理を振る舞うなど、アートを軸にさまざまな分野を融合することをライフワークとしている。「辞っ払いに愛を〜横丁オンリーユースター〜」では立ち上げから昨年までディレクターを務めた。はちのへ文化のまちづくりアドバイザーボード委員。

### パネリスト



まつはし たかし  
松橋 崇史

拓殖大学商学部教授

1982年茨城県生まれ・在住。慶応義塾大学卒業。博士(政策・メディア)。東京工科大学メディア学部助教を経て、2016年に拓殖大学商学部准教授に就任。2023年より同教授。専門は、スポーツマネジメント、スポーツ政策。主な著書に、『スポーツのちから一地域を変えるソーシャルイノベーションの実践』(共著)、『スポーツまちづくりの教科書』(編著)、『ホストタウン・アーカイブ：スポーツまちづくりとメガイベントの記録』(編著)。

### パネリスト

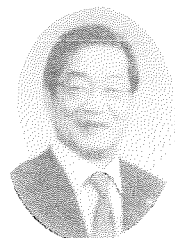


より しげ しょういち  
頼重 秀一

静岡県沼津市長

1968年静岡県沼津市生まれ。1991年日本大学理工学部卒業後、民間企業、国会議員秘書を経て2003年に沼津市議會議員に初当選。以降4期連続で当選し、2017年には議長に就任。2018年沼津市長に初当選し、現在2期目。今年度市制施行100周年を迎えた沼津市において、「フェンシングのまち沼津」のブランド形成やサイクリングを通じた観光誘客、サッカーをはじめとした地元プロスポーツクラブの支援等、スポーツを通じたまちのにぎわいづくりに取り組む一方、地元を舞台としたアニメ「ラフライフ！サンシャイン!!」を活かした地域の活性化にも力を入れている。

### パネリスト



やまざき しんや  
山崎 善也

京都府綴部市長

1958年京都府綴部市生まれ。九州大学経済学部卒業後、日本開発銀行(現日本政策投資銀行)入行。1986年サンフランシスコ大学経営大学院(MBA)修了。1990年世界銀行グループ国際金融公社へ出向。帰国後は企業戦略部長、国際部長など歴任。2010年2月綴部市長に就任し現在4期目。世界選抜宣言自治体全国協議会会長、全国水源の里連絡協議会会長などを務める。自ら「合唱団あやべ」の一員として「合唱のまち綴部」を推進。他にトレイルラン、聖山サイクリングなどスポーツを通じた地域振興も展開している。

**E** HACHINOHE PORT 港  
「海から稲が、海とともに生きる街を海から臨む」 視察コース  
集合時刻 12:10

|        |       |                |           |          |      |
|--------|-------|----------------|-----------|----------|------|
| 八戸市公会堂 | ===   | 屋形船《昼食、八戸港湾視察》 | …         | 八戸酒造《視察》 |      |
| 12:10  | 12:50 | 14:50          | 15:00     | 16:00    |      |
|        |       | ===            | ユートリー/八戸駅 | ===      | 三沢空港 |
|        |       | 16:35          | 17:30     | 18:30    |      |